



JWTC NEWSLETTER

Vol.30 No.1 April 2010

第30回 JWTC総会開催

Next Door 2010 未来へつなごう 旅のしあわせ



2010年2月27日(土)、東京ウイメンズプラザにて第30回総会が開催されました。出席者65名(うち委任状31通)会員数の定足数以上により総会成立が報告され、橋本かおり会員の総会司会、長野久絵会員の議長によって議事が進行しました。

① 2009年度活動報告

総務部、広報部、事業部、会員部、名古屋支部より活動報告があった。

また田辺典子副会長より30周年プロジェクトを3月に立ち上げた旨の報告があった。

② 2009年度会計報告

総務部より決算報告に基づいての報告が行われ、拍手により承認された。

③ 戸井川裕美子会長挨拶

30周年記念事業のため役員の任期を1年延長した。今から10年前を振り返ると会員数が半減している。会員構成も旅行会社、ホテル、航空会社、その他であるが、特に航空会社が現在では1名である。30周年を機に会を増強したい。新しいメンバーを勧誘して元気のいい会にしたい。“運”は「運ぶ」という文字と同じ。自ら運ばないと“運”は来ない。会員みんなで運を呼び込んでいくようメンバーの活動をより活発にしよう。30年続く会は貴重、次の世代に発信していきたい。

今年のテーマ：

『Next Door 2010 未来へつなごう 旅のしあわせ』

④ 2010年度活動計画案

総務部：30周年記念事業に向け各部の協力を得ながら予算を適切に管理する。

広報部：30周年記念事業はマスメディアを活用していく。プレスリリースを多くしていく。次の周年事業に備え、写真のデータ管理を行う。

事業部：デスティネーション・セミナー〈南アフリカ〉5月～6月上旬

観光庁特別講演会 9月に予定

会員部：会員親睦会「小江戸佐原と房総の海の幸満喫の旅」日帰りを6月頃に予定。

新入会員10名目標に活動する。

名古屋支部：名古屋は今年20周年を迎える。会員相互の懇親を深め活動の場を広げたい。

講演会：テーマこれからの旅行業

施設見学：セントレア(開港5周年)

デスティネーション・セミナー：中央アジア・東南アジア

30周年プロジェクト：記念事業の開催日時は11月17日(水)とし、基調講演とパーティーを行う。名古屋の20周年と連動して行う。これまでの協賛金に感謝し、引き続きご協力をお願いしたい。

⑤ 2010年度予算案

配布書類にて説明があり、全員の承認を得た。

⑥ 新入会員6名による自己紹介

なお、安西美津子初代会長より以下のお話があった。

「設立時2、3年しかもたないだろうと言われたこの会が、会員の努力により30周年を迎えることは感無量である。自慢をしてよい年月なので、これを機にあちこちにアピールしていくとよい。9月の観光庁特別講演は良い機会なので会員各社の課長、リーダークラスを誘い、会員自身が参加しやすい環境作りと活動を通して職場に還元していくことを理解してもらうことも大切である。設立当初のパーティーは会員の働き掛けもあって業界のお歴々が出席し、賑やかなものであった。30周年パーティーには各社の交流の場になることをアピールし、参加が有意義なものであることを会員各社の上司に認識してもらい、ぜひ出席を呼び掛けてほしい。」



♪♪懇親会 — 素晴らしい歌声とともに♪♪

総会に続いて、青山の「アーリーズテラス」にて懇親会を開催しました。

今年は、会員相互の交流にとどまらず、業界を超えて活躍されている女性と出会い、学ぶ機会場の場として設定しました。

ご登場いただいたのは、中国人の父と日本人の母のもと生まれ、歌手として活躍されているムーラン（木蘭）さん。

ムーランさんは、日本で生まれ、京劇の発声・歌唱法を学ぶため中国へ留学。その後、仕事、結婚、子育てと充実した日々を送っていましたが、今から15年前に鼻の奥に癌が見つかり大手手術。今は闘病生活を綴った『メッチャ明るいガン闘病記 リライフへの道』を出版、CDアルバム『リライフ』を2009年に発売、そしてライブ活動開始と精力的に活動をされています。

お会いしたムーランさんは、本当に「メッチャ明るい」女性。本当にこの人が辛い闘病生活を送っていたのだらうかと目を疑うほど。何せ最初からテンション高く、私たちは圧倒され気味(?)でショーがスタート。ムーランさんの人生を語っていただきながら、オリジナル曲や中国民謡など計9曲を披露されました。しっとりとした曲もありましたが、テンポの良い、明るい曲はムーランさんらしく、たくさん元気をいただいたステージでした。

ムーランさんのショーの後は、ビジター3名からご挨拶をいただき、そしてムーランさんと共においしい食事を堪能いたしました。

ムーランさんのブログには、この懇親会のこともたくさん書いてくださっています。ぜひ一度ご覧ください。

<http://relife55project.sblo.jp/>

坂本 友理 JTB



☆☆☆名古屋支部便り☆☆☆

■第3回勉強会報告■

デスティネーション・セミナー「マカオ」

日時：平成21年12月2日（水） 11:40～14:00

講師：府川 尚弘氏

中華人民共和国マカオと区別行政区観光局

日本地区マーケティング レプレゼンタティブ

会場：キャッスルプラザホテル

出席者：会員10名

マカオ観光局は世界20カ国に事務所を設置し、すべてマーケティング委託契約会社に業務とマーケティングを委託しています。1～2年ごとにプレゼンをして契約をするレップ制度のもと12年間活動をされている日本地区マーケティングリゼンタティブ府川さんにお話を伺いました。

従来、マカオは香港からの日帰りのイメージがありましたが、現在の渡航動向と近年開発の著しいマカオの現状をお聞きし、個人団体共に需要の見込めるデスティネーションであるということを確認しました。



* * *

日本人のマカオへの渡航者数は、2000年は香港・マカオのコースで15万人、2008年はマカオステイを打ち出し36万人となった。昨年のマカオへの全渡航者数2300万人のうち、最も多いのが中国・香港・台湾という大中華圏と言われる国からで、全体の87%を占めている。日本はマレーシアに次いで4番目となり、次いでフィリピン、韓国と新興国からの渡航者が増えている状況。

マカオは、どこへ行っても車で30分以内、1日で観光ができ、犯罪発生率も日本より低く治安も良い。またセールスポイントとして、旅行スタイルに合った宿泊施設、リゾート、テーマホテル、シティ、カジノ、ポウサダ（ポルトガル風の昔ながらの宿）とニーズに応じた施設がある。グランドハイアット、ベネチアン（サンズグループ）等の大型デラックスホテルにはスイートルームも多数あり、今後コタイ地区に更にシェラトン、コンラッド等の大型ホテルがオープン予定。

日本との歴史的要因や西洋・東洋の融合による世界遺産の魅力。ポルトガル、中華、マカオ料理と多様な食文化は、食彩グルメの街としての魅力。ミシュランの三つ星が1軒、二つ星4軒あり。最近マカオステイの3泊4日の商品が売れるようになり、ホテルクラスも五つ星に平均2.28泊する傾向。1週間滞在の商品も出てきており、アラフォー世代や富裕層、家族、リピーターを取り込んでいきたいとのこと。減少傾向の20代若者には、11カ所の大学と協力してマカオを若者目線でとらえたツアーを企画するなど新しい試みもしている。

* * *

観光局としては、旅行会社の特性にあった戦略の提案やサポートを通じ、市場拡大を目指しているとのことでした。

鈴木 恒子 アドバンス

2009年 デスティネーション・セミナー

モンゴルのタベ



12月11日(金)、青山「アーリス・テラス」にて、忘年会を兼ねたデスティネーション・セミナーを開催し、会員23名、ビジター6名が参加しました。

今回は、会員でもあるモンゴル旅行ジャパンのアリウナー・トゥムルバートルさんによるモンゴル紹介のセミナーと、馬頭琴演奏家のA. バトエルデネさんによる演奏鑑賞プログラムが行われました。

セミナーでは、中国とロシアの間にあるモンゴルの「白い冬」



と「青い夏」を持つ草原が中心となる生活を服装、ゲル、お料理等を通して映像で紹介していただきました。訪れる際は、ツアーリストゲルでの宿泊体験や、乗馬体験はもちろん、国立オペラハウスでのオペラやバレエの鑑賞もお勧めだそうです。ショッピングではなんとと言っても、100%カシミヤの製品です！

続いて、4歳から始め、モンゴル国立芸術大学院を経て、現在は日本で演奏活動をされているバトエルデネさんの馬頭琴の演奏です。馬頭琴はその名の通り楽器の棹に馬の頭が付いた白樺製の弦楽器を、馬の尻尾を使った弓で弾きます。哀愁のある音色ですが、草原では響き渡るのでしょうか。曲の中でもラクダや馬の鳴き声が表現され、動物と身近な自然いっぱいのモンゴルの生活を思い浮かべることができました。

かわいいラクダのぬいぐるみのプレゼントまでしていただき、満喫した気分でしたが、ぜひ本当のモンゴルの風に当たってみたいです。

田中恵理 京王電鉄



新人に伝えたいこと

橋本かおり 京王プラザホテル

今回のお話を頂いて、何を書こうか迷ったのですが、ちょうど3月下旬の今、新人が入ってくる時期になり、ちょっと仕事のことを書かせて頂こうと思います。

私は現在、宿泊予約という部署で働いています。入社以来、ほとんどここで勤務し、学んできました。

1年間の研修を終え、私が宿泊予約に配属になった93年あたりは、バブルは弾けていましたが、まだその名残が感じられ、電話での予約も多くありました。

対面接客をイメージして入社した私には、電話でのやりとりは想像以上に難しく、顔の見えないお客様の対応は不安に思う日々でした。

失敗をたくさんしながらも、年が過ぎ経験も重ねていくにつれ、よくご利用頂く顧客のお客様は名前を言われる前から、

声だけで〇〇様と分かるようになってきました。

そうやって慣れてくると、電話の向こうのお客様の状況も気付くようになり、新幹線の中、電車のホームのベル、赤ちゃんの泣き声、静かな空間でゆっくり話してくる、など相手の今の状態から、どのように対応していくか自ずと見えてきます。

最初は何を質問されるかビクビクしながら毎日をご過ごしていましたが、接客が楽しいものへと変わっていきました。

そして、お客様との会話のキャッチボールを経て、理解納得してご予約頂くことができました。

さて現在、どの業界にも大きな変化をもたらしたインターネットの普及で、電話の本数は10年前と比べて約半分になり、その代わりにネット予約が急増しました。

全く会話の要らない、好きな時に好きな商品を予約できるツール。ともすれば面倒な電話予約など需要がなくなってもおかしくはないかもしれませんが、今、わざわざ貴重な時間を使って電話をして予約を下さるお客様は、少なからず存在するのです。

どんなにネットが主流になったとしても、やはり人の手を介してのサービスは廃れないものだ確信しています。

ここに、私たちの存在意義があるのかなぁと思っています。

現在、部下を指導する立場になって、多々悩みや不安を感じることもありました。

JWTCに入会し、先輩方々のお話を伺ったり、バイタリティーを感じたりして、私も頑張らなくては！と思うようになりました。

そして桜の季節、新人が入ってくる時期になりました。何も分からず不安を抱え入ってくる彼らへ、対面であれ電話越しであれ、接客の楽しさを伝えていきたいと思っています。

今回は、旅行作家の千葉千枝子さん(インペリアル・チエコ)にバトンタッチしたいと思います。



◆ 運営委員会だより ◆

□ 総務部 □

- 総会の最終確認と総会後の懇親会について

□ 会員部 □

- 入退会者の報告 会員数：66名（2月18日現在）
- 2010年会員ハンドブックの個人情報更新更手続きについて

□ 広報部 □

- 総会及びニュースレターの年度の表記について

□ 事業部 □

- 2010年デスティネーション・セミナー〈南アフリカ〉5月開催予定

□ 30周年プロジェクト □

- 開催日 2010年11月17日に決定
- 会場は会員のホテルに打診中
- 講演：(株)ジェイティブー取締役相談役 船山龍二氏に依頼する
- 記念誌及び記念品を検討中

□ その他 □

- JWTC2010年のキーワードについて各部より様々な意見があり、検討を行った
- 旅行産業経営塾の開催復活に伴い承認団体の依頼があり、その趣旨に賛同し承認することに決定

★ 新入会員紹介 ★

会員 No.424

星 恵美子

(有)スタープランニング



このたびは入会させていただきました、ありがとうございます。

今年で設立12年。ずっとJTBパートナー店としてパッケージツアーの販売と、幹事さんの黒子のような役割です。

お客様が行きたい所に行って、楽しんでいただけるよう、いつも最善を尽くしています。国内・海外・クルーズ・パーティー……、専門はありません。

どうぞよろしくお願いたします。

30周年行事への協賛のお願い

昨年来、会員の皆様に協賛のお願いをしておりますが、随時受け付けておりますので、引き続きご協力をお願い申し上げます。

協賛金 一口 5,000円（何口でも可）
銀行振り込みにてお願いいたします
銀行名 三菱東京UFJ銀行 小岩支店
口座番号 普通口座 1772383
口座名 日本旅行業女性の会
会計担当 ^{ホンダミチ子} 本多美知子

■ お知らせ ■

1月に、会員の宮下南緒子さん（元ベルギー観光局日本支局長）が、本を出版されました。

『ベルギー、花の風景』

著者 宮下南緒子
出版社 文芸社 ISBN978-4-286-08155-7
定価 本体1,400円+税
販売 アマゾン、その他オンライン、
全国の主要書店（紀伊国屋他）
お問い合わせ 文芸社 TEL 03-5369-2299（販売）

「このたび本を書きました。新しい切り口でベルギーを語りたいと、リタイアしてから2年余り、まだまだ未熟ですが、33年間の仕事のささやかな一つの集大成でもあり、区切りでもあります。

原稿を書きながら、訪れた町々、出会った人々を思い出しながら、再びベルギーへの旅をなぞるような思いがいたしました。

ベルギーを知る機会となるこの拙著をぜひともご高覧、ご高評頂きたく損じます」と、宮下さんは語っておられます。

あまりなじみのない国だったベルギーを、長年にわたってその奥の深さを教えてくださった宮下さん、「花」をキーワードにさらに奥の深いベルギーを素敵な写真とともに紹介してくださっています。ぜひ、ご一読を。 西鳥羽洋子

編集
後記

30周年記念事業で盛り上がりを見せた今年の総会でした。

いつの間にか30年、旅行業界で初めて女性の集まりとして設立された日本旅行業婦人の会（途中で女性の会に改称）は、当時のバブル景気もあって順調な滑り出しでした。旅行業界の様々な業種の人たちが集まっていた情報交換はまさに目から鱗で、学ぶことが多かったのです。

その後の相次ぐ不況の中でリストラされて会員は確かに激減しましたが、しなやかに、したたかに（昔のキーワードの一つ）今まで来たのは、この会のニーズがそれぞれの時代こそ違え必要とされていたからだだと思います。

昨年のキーワードは「原点からのスタート」、そして今年は「Next Door 未来につなごう旅のしあわせ」、若い息吹が感じられます。更なる10年に期待しましょう。 (K. F)

